「言語活動を充実させ、
児童の思考力・表現力を伸ばす指導方法の工夫」

秩父市立西小学校

１　主題設定の理由

本校の児童は、素直で、言われたことにまじめに取り組む。しかし、「自分の意見を述べたり書いたりすることが苦手である。」「言葉遣いが乱暴なところがあり、友達とコミュニケーションを図りづらい。」といった傾向がある。つまり、思考力や表現力に課題があると言える。

今年度より３年間、県教育委員会新規事業「地域に応じた学力向上推進モデル事業」の指定を受けた。そこで、言語活動を充実させることで、思考力や表現力を伸ばすことができる考え、取り組んでいる。

２　研究の仮説（授業）

仮説１　話すこと・聞くことの基礎的なことを身に付けさせ、小グループでの話し合い活動やキーワード等を用いて説明するなどの言語活動を充実させていけば、児童の表現力が高まるであろう。

仮説２　自分の考えを明確にさせ、対話や記述を通して他人の考えと比べる活動を積み重ねていけば、児童の思考力が高まるであろう。

３　研究の概要

（１）授業改善

ア　年３回の授業研究会を中核とし、学習指導の充実と改善を図る。

イ　授業における言語活動の充実を図る取組について研究・検討する。

ウ　研究校を視察し、本校の取組に生かす。

エ　学習支援員を活用し、児童の学力の底上げを図る。

オ　西小スタンダードを作成し、一単位時間でこれだけはやるという標準を作る。

（２）家庭学習の充実・家庭との連携

ア　「家庭学習の手引き」を見直し検討し、「家庭学習の手引き（改訂版）」を作成する。

イ　各学期に「家庭学習がんばろう週間」の取組を行い、家庭での学習習慣を確立し、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。

ウ　教育講演会を実施し、保護者の家庭での支援の在り方について考える機会をつくる。

（３）実態・状況把握、調査研究

ア　埼玉県学習状況調査、全国学力学習状況調査、教育に関する３つの達成目標検証の結果を分析し、結果を全教職員で共有する。

イ　学力調査（算数・国語）を実施し、全学年の児童の実態をつかみ指導に生かす。

ウ　ＱＵテストを実施し、学級集団の中での児童の実態をつかみ指導に生かす。

エ　児童の実態把握に関する調査研究を行う。

（４）学習環境の整備

ア　「発表上手」「発表サポート」等の掲示物を活用し、児童が発表しやすい環境をつくる。

イ　図書室の整備、朝読文庫、親子読書、読み聞かせボランティアの活用など、児童が読書に親しめる環境を整え、読書活動を積極的に推進する。

ウ　朝学習プリントを作成し、達成率の低い内容（観点）の補充をする。

４　授業における具体的な取組

（１）第１回授業研究会（１０月３日実施）

ア　第３学年１組　社会科「スーパーマーケットではたらく人」（指導者　宮原大輔　教諭）

イ　研究の視点

「進んで考え、表現できる児童を目指す授業実践」

ウ　具体的な取組

○継続的な表現の指導

・単元の始まりにワークシート（冊子）を児童に配布し、授業で考えたことを毎時間書かせる。「疑問、発見、考えの変化、驚き」等も書くように単元を通して指導する。

○小グループでの活動

・安心して発言できる機会をつくり、主体的に課題解決に向かうために３、４人の小グル

ープで活動する。
・付箋を使ってお互いの良さやアドバイスを伝え合い、自分の考えを確認していく。
○意欲を高める学習課題の設定
・単元の導入で、ゴールを示す。店長として自分のスーパーを開店することがゴールであることを伝える。「お客さんのたくさん来るスーパーにしたい。」「スーパーのことを知らなければならない。」という学習の必要性を理解させる。そのことにより、児童は、インタビューや見学、話し合いに意欲的に取り組み、自分の思いを込めた計画案を作る。

（２）第２回授業研究会（１１月７日実施）
ア　第６学年２組　理科「てこのはたらき」（指導者　遠山宗則　教諭）
イ　研究の視点
「グループでの話し合い活動を重視した授業実践」
ウ　具体的な取組
○少人数での実験観察
・実験・観察に主体的に参加できるように、４人のグループにする。全ての児童が実験に関わることができる。

○話し合いによる意見の交流
・言葉でまとめることが苦手な児童が多いため、グループでの意見交流で話し合う。
・小ホワイトボードを活用し、事象を理科的用語を用いてまとめさせる。
○考えたことを説明する場面を設ける
・グループでまとめたことを全体の前で説明できることで、発表することに自信を持たせ学習意欲の向上につなげる。

（３）第３回授業研究会（１月２４日実施）
ア　第２学年２組　国語科「きつつき」（指導者　青山千晶　教諭）
イ　研究の視点
「書かれている事柄の順序に気を付けて読む授業実践」
ウ　具体的な取組
○目的を明確にし学習意欲を高める
・単元のゴール（おもちゃ作り大会）を児童に伝えることで、目的意識を持って学習に取り組ませる。
・友達にわかりやすく説明するために、順序立てて説明書を書く必要性を理解させ学習させる。
○小グループによる意見の交流
・発表に対して消極的な児童が多いので、安心して発表できるように小グループで活動させ、発表した達成感をもたせる。
○掲示物の活用
・「発表上手」「聞き上手」「声のものさし」等の掲示物を使い、具体的に発表の仕方を指導する。

５　成果と課題

（１）研究の成果
ア　単元の始めにゴールを示すことで、目的意識をもち、学習に取り組ませることができる。
イ　児童の実態に合わせた課題を設定することで学習意欲が高められる。
ウ　小グループでの活動や発表を取り入れることで、安心して発表でき、発表機会も多くなるので効果的である。
エ　キーワードを用いてまとめることで児童の思考力を高めることができた。
オ　付箋、ワークシート等を使い書く活動を積み重ねることで児童に表現力が付いた。。
カ　掲示物や話し合いカードを使うことで、話し合うことができるようになってきた。

（２）今後の課題
ア　各教科の目標を実現させるために、言語活動を取り入れ、児童の思考力・表現力を高めていく。
イ　児童が主体的に学習に取り組めるような課題の設定や単元の構成を考えて授業をしていく。
ウ　書く活動を取り入れ、児童が自分の考えを自分の表現で書けるように工夫していく。

（担当　主幹教諭　大澤伸一）

「豊かな心を育み、確かな力をつける」
ー　思いやりの心と伝え合う力をもとめて　ー

秩父市立南小学校

１　はじめに

平成２４年度当初の検討から、あいさつ・返事・場に応じた言葉遣いに課題がみられた。そこで、話す、聞く、 伝える等を身につけさせることを通して本校の課題解決を考えた。

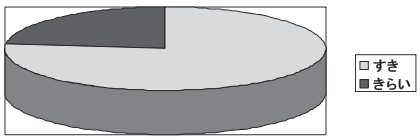
日々の「あいさつ・返事・発表等」を繰り返し指導することで、コミュニケーション能力を高め、学習規律の定着を図ることができるであろう。（仮説）

	１年	２年	３年	４年	５年	６年	全校
あいさつ	９１．６ ９６．６	１００ ９１．６	９０．９ ８９．１	８０．９ ８０．９	９５．３ ９３．３	７１．１ ９３．３	８８．３ ９０．８
返　事	９１．６ ９０．０	９２．３ ９７．２	９３．９ ９７．２	７２．５ ９５．２	９５．３ ８６．６	９３．２ ８６．６	８９．８ ９２．１
言葉遣い	９１．６ １００	８４．６ ９４．４	６９．９ ９７．２	６５．８ ９５．２	９３．０ ８６．６	８８．１ ８６．６	８２．１ ９３．３

平成２５年度の課題検討から

○友だちとの関わりや言語活動を、より充実させることにより、思いやりの心や伝え会う力が豊かになるであろう。「読む力・書く力」の育成に努めることで、文章を理解し、読み取ることができ、また、読書活動の充実に努めることで、言語活動の充実を図ることができるであろう。

発表について



○発表を好きになるために

・高学年になるにつれて発表をきらう児童が増えてくる。発表の機会を増やし、発表の楽しさ、表現力が身につくだろう。

２　具体的な活動

具体策（規律・生活習慣）

・あいさつ、発表等の指導
・学習の準備、片付け
・学習や生活のきまりの遵守
・時刻の遵守
・ていねいな言葉づかい
・無言清掃

具体策（言語活動）

・校長講話を聞いての書き取り
・詩の暗唱、群読発表
・朝の時間を使って
　短作文、文の視写
・教室背面黒板の有効活用
・親子読書
・家庭学習の充実（保護者への働きかけ）
　（長期休業中の学習記録）

各学年の読書活動

読　書	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月
本の冊数	８９９冊	３０２冊	７１９冊	９７２冊	７２１冊	３４１冊
１人平　均	４．２冊	１．４冊	３．４冊	４．５冊	３．４冊	１．６冊

群読発表

６／３日　３年　　７／１日　４年　　１１／１日　５年　　１２／２日　６年
２／３日　１年　　３／３日　２年

学年ごとに詩や短文を選び、朝の会や国語の時間を使って群読の練習をする。その後、全校児童の前でステージで発表する。声の大きさ、強弱、リズム感、暗唱力、発表力高めさせる。

校長講話を聞いて要点をまとめ感想を書く

３　要請訪問　　授業研究（先行授業を含む）

１０月１７日（火）　５年１組　国語授業研究　　設樂　聡子教諭・逸見　正子教諭

○単元名「根拠や理由を明らかにして話し合う」
　教材名「討論会をしよう」
○本時の目標
　根拠と理由をはっきりさせた、討論会を行うことができる。
○指導方法の工夫
　少人数に分けて発表の機会を多くとる。学習形態を変える。興味にそって、テーマの決定。
○授業者の反省
　少人数に分けることができたので、数多く発表させることができた。
○研究協議から（指導・助言）
　担当指導者の話しかけが大変よかった。

１１月２０日（水）　１年２組　国語授業研究　　原島　美英　教諭

○単元名「じゅんじょをかんがえてよむ」
　教材名「はたらく　じどう車」
○本時の目標
　学習してわかったことをもとにして、手紙をかくことができる。
○指導方法の工夫
　一斉読み・声の大きさが上手であった。
　書くことで、低学年で２０分間集中してかけたことは、大変よかった。
○授業者の反省
　読み取りが正確でない児童がいるので、その部分を高めたい。
○研究協議から（指導・助言）
　学習のねらいが明確で、児童の集中力が素晴らしい。

４　おわりに

（１）成果
　○生徒指導部・特別活動部（児童会活動）の積極的な活動により、児童の変容があった。
　○１学年、５学年の先行授業により授業研究の回数も増え、深まりが見られた。
　○児童の発表する姿が多くみられた。機会が増えたため、発表力の向上につながった。

（２）課題
　○読解力の向上の育成のため、読み取り、考えを書く等の高まりを期待したい。
　○家庭学習の重要性を継続的に説くこと、保護者への働きかけが大切である。

（担当　教諭　宮嶋達夫）

伝え合う力を身につけさせる指導の工夫
― 国語科を中心として ―

秩父市立尾田蒔小学校

1　テーマの設定理由

（１）　児童の実態から

○自分の言葉で豊かに自己表現したり、相手の立場や考えを的確に理解する力が十分に育っていない。

（２）　保護者の要望から

○コミュニケーションする力や話し合う力を育て、確かな学力を育成してほしい。

（３）　教育課程から

○言語活動の充実は、児童の思考力・判断力・表現力を育む基盤である。

2　伝え合う力とは

「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり、正確に理解したりする力」（小学校学習指導要領国語編）

3　めざす児童像

（１）　学校全体のめざす児童像

相手の思いや考えを聞き、自分の思いや考えを話せる子

（２）　低・中・高学年別のめざす児童像

低学年　…　友だちの考えをしっかり聞き、自分の考えをきちんと話せる子

中学年　…　友だちの考えをしっかりと聞き、自分の考えを筋道を立てて話せる子

高学年　…　友だちの考えを正確に聞き、自分の考えをわかりやすく話せる子

4　研究の仮説

（１）　一人一人の児童が実際に発表する、聞く活動を授業に位置づけ、できるだけ多く体験させれば伝え合う力が育つであろう。

（２）　話し合いを自分で、また、相互に評価できる工夫をしていけば、伝え合う力が育つであろう。

（３）　全教育活動で発表する、聞く活動を充実させていけば、伝え合う力が育つであろう。

5　研究の手立て

基礎・基本の定着

・繰り返し指導　・ドリル学習の徹底　・補充指導　・定着の確認（単元テスト、全校一斉漢字・算数テスト）　・家庭学習や朝自習の充実

授業の改善

・「聞く、話す、書く、読む」活動の充実　・聞きたい、話したいと思える授業展開や活動の場の工夫　・ペア学習やグループ学習の充実

言語活動の充実

・作文発表（始業式、終業式）　・話し合い活動（クラブ、委員会活動、縦割り班活動）

・朗読集会　・あいさつ運動　・一言、一分間スピーチ　・「６年生を送る会」での出し物

・全校スピーチ大会

読書活動の整備

・年間５０冊　・読書月間の取組

言語環境の整備

・廊下等の掲示　・国語コーナー

全校スピーチ大会

学習習慣の育成
・姿勢、聞く、返事、学習の準備
家庭・地域との連携
・学校、学級だより　・授業参観、懇談会　　・家庭訪問　等

６　専門部の取組

（１）　授業研究部
　○ 授業において研究テーマに迫る工夫や手立てを考え、実践する。
　　・指導案の形式作成　・「聞く、話す、書く、読む」活動の充実
　　・「話し方名人」「聞き方名人」の作成　等
（２）　調査統計部
　○国語科における児童の実態把握に努める。
　　・アンケート作成　・アンケート実施、考察（２回）
（３）　言語環境部
　○子ども意欲を高める学習環境の整備に努め、伝え合う力を育む。
　　・月ごとに詩の掲示　・ぽかぽか言葉の掲示　等

７　授業実践

（１）　１学年２組　研究授業（第１回要請訪問）　１０月２９日（火）
　　単元名・教材名　じゅんじょを考えてよむ　「はたらくじどう車」
（２）　６学年１組　研究授業（第２回要請訪問）　１１月１８日（月）
　　単元名・教材名　多様な見方をもとに考えを深める
　　「ぼくの世界、きみの世界」（説明文）
（３）　３学年１組　研究授業（第３回要請訪問）　２月　６日（木）
　　単元名・教材名　段落どうしの関係を考える
　　「どちらが生たまごでしょう」（説明文）

１年の授業（ペア学習）

６年の授業（グループ学習）

８　成果

○「話し方名人」「聞き方名人」が全校に広がり、児童の意識が高まった。
○朝の会や帰りの会、学活や道徳の時間に、学級で集めた「ぽかぽか言葉」を紹介し、お互いに認め合った。あたたかい言葉にふれ、言語に対する意識が高まった。
○国語科のアンケートを２回実施したことにより、児童の実態把握をきめ細かく行うことができた。
○系統立てたワークシートの活用により、児童の理解が深まり、伝え合う力の育成に生かすことができた。
○ワークシート等に書くことにより、自信をもっての発表につながった。

（担当　教諭　田嶋　昇）

自分の考えをもち、伝え高め合う学習活動

秩父市立原谷小学校

１　はじめに

本校では「教育に関する３つの達成目標」を推進し、学校の教育目標の具現化を図ることで、児童に「生きる力」を身に付けさせることを目指している。

そこで、児童や地域の実態、保護者・教師の願い、地域社会の変化や社会的要請などをもとにして研究主題を『自分の考えをもち、伝え高め合う学習活動』とした。昨年度に引き続いての２年次となる本年度の研究において、算数科を中心として全校で取り組みを行ってきた。

２　研究主題達成に向けての具体的取組

（１）「算数科」での取組内容

ア　各時間のめあてとまとめを板書する。

イ　児童が自分で考える場面、みんなで考える場面を取り入れた授業を展開する。

ウ　既習事項を活用して、説明できる力を付けさせる。

エ　計算の学習で、「３つのけ（K）」を習慣化させる。
　（見当・計算・検算：逆算の活用）

オ　基礎的な計算力を確実に身に付けさせるよう、反復学習の時間と場を設ける。

カ　習熟度別少人数指導を核として、個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善をする。

キ　適切な家庭学習を積極的に取り組ませる。小中連携による集中学習期間を設置する。

（２）算数科における授業研究

ア　要請訪問における研修

（ア）第１回要請訪問授業研究会（６月２４日）

＜第２学年＞

＜３けたの数（１００より大きい数をしらべよう＞

＜研究テーマとの関連＞

○児童に興味関心を持たせる問題提示をする。

・教師がクリップつかみを演示することで、取ったクリップを数えることに意欲を持たせる。

○話合い活動

・既習事項を元に新しい位を作ればよいことに思いつかせるため、教師がいろいろな切り返しの言葉を持つ。

○グループ学習

・自分の考えを、自信を持って伝えられるようなグループ学習を取り入れる。

（イ）第２回要請訪問授業研究会（１０月２８日）

＜第６学年＞

＜比例と反比例＞※習熟度別少人数指導

＜研究テーマとの関連＞

○身の回りから問題を提示し、課題意識を高める。

・画用紙という身近な例を示すことで、課題に取り組みやすくさせる。

○自力解決の時間を十分確保し、自分の考えをプリントに書く。

・考えを説明できるように準備させ、発表の練習をさせる。

○自分の考えを発表したり友だちの考えを説明したりしながら、練り上げる。
・視聴覚機器を用いてプリントを拡大提示して説明させる。友だちの考えのよさに気づかせ、まとめに生かしていく。

（ウ）第３回要請訪問授業研究会（２月４日実施予定）
＜第４学年＞
＜小数のかけ算とわり算＞※少人数指導（均等割り）
＜研究テーマとの関連＞
○数直線やカードを活用する。
・数直線によって、わり算の計算の意味をとらえやすくさせる。
○自力解決の時間を十分に確保し、ノートに自分の考えをまとめる。
・図、式、言葉等を使って考えをまとめさせる。また、肯定的な声かけをすることで、問題を解く意欲を高めさせる。
○自分の考えを説明する機会を設ける。
・ペア学習をする中で、友だちの説明も取り入れながら自分の言葉で説明をさせる。

イ　ブロック別における研修

（ア）第１回校内授業研究会（１１月２６日）
＜第１学年＞
＜どちらがひろい＞
＜研究テーマとの関連＞
○既習の長さや、かさの学習を思い起こさせることによって、広さを比べる方法を一人一人に考えさせる。
○広い紙を見つけ出す活動において、広いと考えられる理由を自分の言葉で伝えさせる。
○友だちの考えや発表をよく聞かせる。

（イ）第２回校内授業研究会（２月実施予定）
＜第３学年＞

（ウ）第３回校内授業研究会（２月実施予定）
＜第５学年＞

３　成果と課題

（１）研究の成果
ア　年３回の要請訪問を算数科で行った。秩父市教育研究所指導主事を要請しご指導を受けることで、練り上げ場面における研究を深め、授業改善へとつなげることができた。
イ　１時間の流れを明確にした授業が多くなった。板書についても「１時間の授業の流れが見える板書」となるように、工夫改善が図られてきた。
ウ　問題解決的学習の授業が効果的に展開された。
エ　授業研究を通して、学年・ブロックでの協力体制の充実が図れた。

（２）今後の課題
ア　学習過程の中での練り上げ場面における工夫改善については、今後も研究を深めていく。
イ　児童の思考力・判断力・表現力の向上のため、言語活動の充実を図っていく必要がある。

４　おわりに

『自分の考えをもち、伝え高め合う学習活動』とするためには、研究授業を中心とした研修が効果的である。同時に、学習規律や学習習慣・家庭学習の定着も重要である。そこで、今後も教育に関する３つの達成目標をさらに推進し、児童一人一人が輝くよう全職員で取り組んでいきたい。

（担当　主幹教諭　野口泰明）

「確かな学力（基礎・基本）を身につけ、生き生きと活動に取り組む児童の育成をめざして」
ー　読解力・表現力の向上をめざす実践を通して　ー

秩父市立久那小学校

1　はじめに

本校は、研究主題を「確かな学力（基礎・基本）を身につけ、生き生きと活動に取り組む児童の育成をめざして」　―読解力・表現力の向上をめざす実践を通して―
とし、国語科を中心として研究に取り組んできた。

2　研究の構想

学校教育目標
◎豊かな心を持ち、自ら気づき、考え、行動できる児童の育成
○なかよく
○かしこく
○たくましく

研　究　主　題
「確かな学力（基礎・基本）を身につけ、生き生きと活動に取り組む児童の育成をめざして」
―　読解力・表現力の向上をめざす実践を通して　―

主　題　設　定　の　理　由
全国学力・学習状況調査の結果や本校の児童の実態から、さらに読み書きや発表の技能を高めるとともに、基礎基本を確実に定着させるため、言語活動を充実することが大切であると考え、本研究主題を設定した。

研　究　の　仮　説
読解力と表現力のねらいを明確にし、読み取ったことを表現させる授業を展開していけば、知力にあふれ生き生きと活動に取り組む児童の育成が図れるだろう。

①読み・書きなどの基礎的、基本的な内容をくり返し学習することで基礎学力が定着するであろう。
②各教科・領域を通して「読む力と書く力の育成」に努めれば、文章を理解し、読み取りができ、自分の考えを表現できる児童が育つであろう。
③「久那っ子発表の仕方」「声のものさし」などにより学習規律を確立することにより、落ち着いて学習に取り組むことができるであろう。
④「音読カード」「全校漢字テスト」「音読発表」「視写活動」「読み聞かせ」などの「全校的活動の推進」に努めれば、読み書きや発表の技能を高め、基礎・基本を確実に定着させ、読解力向上につながる基盤をつくることができるであろう。
⑤多くの本とふれ合えるように、「読書活動の充実」に努めれば、読書する習慣が身につき、読解力を深く支える基礎的な力が育まれるであろう。
⑥言葉に対する興味を持たせ、それを調べる環境を整えれば、言葉に対する理解が深まるであろう。
⑦自分の思いや考えを書いてまとめる場を確保すれば、自分の考えをじっくりと考え直しながらまとめていくことができるであろう。
⑧伝えたい相手を決めて、発表の場を工夫すれば、相手意識を持ち、自分の考えを表現しやすくなるであろう。

研　究　の　内　容

ア　場面の様子がよく分かるように読みを深めさせるための手だて（省略）

イ　順序よく自分の考えをまとめるための手立て（省略）

ウ　相手を意識し表現させるための手だて（省略）

エ　全体を通しての手だて（国語の力を高めるための補助として）（省略）

３　具体的な取組

低・高学年別に２度の研究授業を計画し、１１月に低学年部会の研究授業を実施した。全員で研究協議を行い、授業の質を高め、授業改善に取り組んだ。また、日々の授業に生きる約束の検討や、国語力の向上に結びつく学校全体での取り組みを実施した。高学年部会の研究授業については、都合により行うことができなかった。

＜第２学年要請訪問＞

（１）低学年の取組（物語文）

第１学年　じゅんじょをかんがえてよむ　「はたらくじどうしゃ」

ア　具体的な手立て(主なもの)

○読み方の工夫（左右にわかれて読む、丸読みなど）
○プリントに沿って読み取ったことを順序よく書く。
○多くの本からいくつもの自動車について読み取る。

イ　成果

○プロジェクターの活用により、自分の発表を視覚的に説明することができた。自信をもって発表することができ、聞いている児童も発表に集中して分かりやすくとらえることができた。
○自作ワークシートを作成したことで、学習を焦点化することができた。
○「久那っ子発表の仕方」「声のものさし」の徹底を図ることができた。
○毎日、音読カードを活用することで、自信ある読みができた。

（２）全校の取組(主なもの)

ア 音読カード（通年）
イ 朝読書（水曜日朝自習）
ウ 家庭学習の手引きの作成と活用、児童の家庭学習等の点検
エ 読み聞かせ（本読みボランティア）
オ お話の会（市立図書館よりＧＴ）
カ 学力アップタイム（金曜日朝自習）
キ 音読発表（各学年）

＜お話の会＞

＜感動体験作文発表会＞

ク 各教室国語コーナーの活用
ケ 音読発表　　など

４　成果と課題

（１）研究の成果

○研究の成果による指導法の改善により、児童の興味・関心と読解力や表現力をいっそう向上させることができた。
○理解力を高めるワークシートの作成方法や視聴覚機器（教材提示装置・プロジェクター）の利用法を教師自身が身につけることができ、常用できるようになった。
○児童が家庭学習や自学について、よりよく取り組めるようになった。
○ボランティアによる読み聞かせ活動や音読発表により、国語に対する興味・関心をいっそう高めることができ、読書好きの児童が育ってきた。
○全校での３つの達成目標の取組では、「読み・書き」９７．３％、「計算」９８．９％を達成した。

（２）今後の課題

○全国学力学習状況調査や埼玉県学習状況調査等の検証分析により、主として話すこと・聞くこと、目的に応じて書くことに課題があることがわかっている。そのため、話の中心を的確に聴き取ることや辞書の日常的な利用、配当漢字の読みの力を高める音読と書いたことの発表等を繰り返し指導し、実践化していくことが大切である。
また、算数では、主として活用の分野での学力向上を目指していきたい。

５　終わりに

今年も、学校課題の解決に向けた取組ができた。少人数だが全職員の努力と協力により、授業力を向上を目指す校内研修を実施することができた。また、所有する教具の有効活用により、楽しく実りある研修にすることができた。今後も更に授業改善につながる研修にしていきたい。

（担当　教諭　齋藤春則）